

桑田 正人

私たちが、お話を聞かせて頂くことは、決して立派な人間に、賢い人間に成るために聞かせて頂くことではないと思います。

どこまでも自分自身の在り方に気づかされていくことだと思います

私の大先輩で北陸の方ですが、高光大船という方が居られまして、その方が、このようなことを言っておられます。

「人間は、言葉を持った動物だ。朝から晩まで種々なことを言っているが、そのことをギュウと縮めると、4つのことしか言っていないといわれるのです。それは何かといえば、それでも、そやけど、あの人が、この人がとしか言っていない。」と言われました。

私は、このことを聞きまして、この内容はどこまでも自分を守ろう、自分が一番可愛いという自己弁護と、何事も他人の所為、自分以外の所為にする責任転換でないかと思うのです。

私たちは、日常生活の中で何気なく使っている言葉の中に、私の在り方に気づかされるということがあります。

その気づかされたことに、一つ一つ頷くところに佛法が佛法「教え」として成り立つのではないのでしょうか。